



## 安定した電力供給を支援するため 鉱山大国・チリに火力発電設備を納入

南米大陸の太平洋側に位置するチリは、赤道近くから南極近くまで、南北4,000kmに及ぶ細長い国です。おいしいワインの産地としても知られていますが、銅の生産量世界一の鉱山大国でもあります。そんなチリの発電業者であるグアコルダ社に、三菱重工は石炭焚火力発電設備を納入。現在、首都・サンティアゴから北方約700kmのウアスコ地区で運転を続けています。今回は、2009年と2010年に続けて3・4号機を納入した横浜製作所のチリ グアコルダプロジェクトチームに話を聞きました。



4基目工事中の発電所を上空から。建設地が非常に硬い岩盤であるため、発破工事を行うなど、基礎工事にもひと苦労だった

**Q. プロジェクトの概要についてお聞かせください。**

**A.** チリの電力事業者であるグアコルダ社に石炭焚火力発電設備を納入しました。ボイラーおよび現地工事は横浜製作所、蒸気タービンおよび復水器は長崎造船所が担当しました。納入したプラントは15万kW 2基で、これまで横浜製作所が取りまとめたものとしては最大発電量を誇ります。加えて、排出ガス中の有害物質を吸収・除去する脱硫装置や脱硝装置をチリで初めて石炭焚火力発電プラントに設置し、環境規制値を遵守しました。

**Q. 今回なぜ火力発電が拡充されたのでしょうか？**

**A.** これまでは水力発電が主流でしたが、気候に大きく左右されるため、ここ数年で天然ガスや石炭を燃料とする火力発電に移行しつつあります。鉱山大国のチリでは銅の精錬のためにも多くの電力が必要です。堅調な経済成長に伴い電力需要が高まるなか、安定した電力供給を求めて、石炭焚火力発電の需要が急増しています。

**Q. 計4基目となるプラント納入でしたが、どのような意気込みで取り組まれましたか？**

**A.** 約10年前に当社にて納入した1号機と2号機は、今でもお客様からの高い評価をいただいております、その成果が今回の受注につながりました。ですから、後に続く我々は身を引き締め、「より高い性能を満たしたプラントを、なんとしても約束の期日までに納入する」という目標を掲げて一致団結で取り組みました。その結果、3・4号機ともに納期よりおよそ1カ月半以上も早い納入を達成！お客様からお褒めのお言葉をいただきました。

**Q. プロジェクトを振り返っていかがですか？**

**A.** プロジェクト進行中の2010年2月、チリで大地震が起きました。発電所は、震源地と1,000kmほど離れていたため直接的な被害はありませんでしたが、その影響で送電線が遮断され、長時間の停電。試運転中だった4号機の発電ができず、復旧のめどがなかなか立たないこともありましたが、お客様と連日夜遅くまで議論を重ねて状況を乗り越えました。無事納入に至ったのは、良好な関係を築けたお客様と、すべてのスタッフが力を尽くしたおかげだと思っています。



納入した4基目には、チリの環境規制値に対応した脱硝装置を設置している。石炭焚火力発電プラントに設置したのは今回初めてのことで



プロジェクト全盛期に、スタッフ全員で。チリ人の現地スタッフの皆さんも当社のプロジェクトに参加していることを非常に喜んでくれた



発電所が建つエリアから15分ほど離れたウアスコ市内は、小さな港町。日本から見ればちょうど地球の真裏、乗り継いで約40時間を要するはるかな地

